

肉用牛生産者、酪農家の皆様へ



やっかいな牛の伝染病（**ヨーネ病、牛伝染性リンパ腫、牛ウイルス性下痢**）の対策には**青森県畜産協会の事業が活用できます！**

各伝染病の特徴

ヨーネ病：細菌（ヨーネ菌）が原因。長い潜伏期間の後に水溶性下痢、乳量低下、削瘦（やせる）などで生産性が著しく低下。治療法、ワクチンはない。

牛伝染性リンパ腫（略称 EBL）：ウイルスが原因。リンパの腫れ（肉腫）が主徴。感染しても発症する牛は数%だが肉の全廃棄など経済損失が大きい。治療法、ワクチンはない。

牛ウイルス性下痢（略称 BVD）：ウイルスが原因。下痢、呼吸器症状、流産が主徴。特に妊娠中の母牛が感染すると生まれた子牛は生涯ウイルスを排出し感染源となる。

畜産協会事業の概要(国の助成と各家保等のご協力を頂いています。)

ヨーネ病対策

ヨーネ病早期清浄化のための自主とう汰の推進

○ヨーネ病は家畜保健衛生所（家保）が定期検査し（肉用牛では2年毎、乳牛は5年毎）患畜の摘発・とう汰が進められています。

○農場で患畜が見つかった場合、殺処分となり評価額の4/5が交付されますが、本病の清浄化までは相当な期間を要します。

○そこで、畜産協会では**感染リスクが高い同居牛を自主的にとう汰した場合、一定金額を生産者に交付する事業**を実施しています。



牛伝染性リンパ腫（EBL）対策

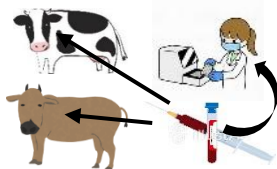
EBLの感染拡大防止の推進

○牛伝染性リンパ腫（旧名「牛白血病」）は、感染牛の血液や乳汁を介し他の牛に感染するので、清浄化には的確な検査による農場内の感染牛把握と、経営状況等に応じた感染牛の計画的更新、非感染牛の導入が重要です。

○また日常管理では、感染牛と非感染牛との分離飼育や、ウイルスを媒介する吸血昆虫の駆除などの対策が有効です。

○そこで、畜産協会では本病の浸潤状況把握のため抗体検査費や吸血昆虫対策として忌避駆除薬の購入費、防虫ネットの設置、アブ捕獲器の設置費に助成する事業を実施しています。

抗体検査→病気の浸潤状況把握



吸血昆虫対策



※写真は業者 HP より転載

購入額の一部を事業実施市町村、団体に交付



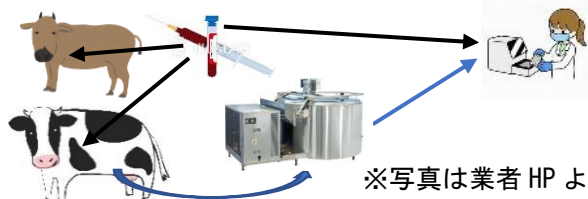
牛ウイルス性下痢（BVD）対策

BVDの感染拡大防止の推進

○牛ウイルス性下痢（BVD）はワクチンが開発されているので、接種励行が感染防止対策の基本ですが、その上で、感染した妊娠牛から生まれ生涯ウイルスを排出する子牛（持続感染牛（PI牛））の早期摘発と自主的とう汰が早期清浄化へのポイントとなります。

○そこで、畜産協会では浸潤状況把握のため検査費の支援のほか、PI牛を自主的にとり除した場合に一定額を生産者に交付する事業を実施しています。

抗体検査、バルク乳検査→病気の浸潤状況把握

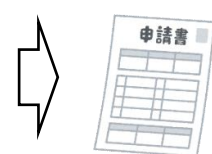


※写真は業者 HP より転載

PI牛の摘発自主とう汰



一定金額を生産者に交付



生産者の負担軽減

